

国立公文書館内閣文庫蔵『海瓊白先生詩集』解題と翻刻

大島 絵莉香

一 はじめに

本稿は国立公文書館内閣文庫に所蔵される、室町時代の抜書『海瓊白先生詩集』（以下、内閣本と略す）の翻刻稿である。「海瓊」とは南宋の道士葛長庚（一一九四～一二二九？）、字は如晦、号は海瓊子・海南先生を指す。彼は瓊州に家住し、後に海南・白氏の養子となり、名も玉蟾と改めた。内閣本は白玉蟾の別集（『詩集』とはあるが詩文ともにあり）の断片的な抜き書きであり、抜き書きに附される巻数からすると、その最大は巻三十九である。内山精也氏は白玉蟾の別集で最も通行した明・正統七年（一四四二）朱権序刊『海瓊玉蟾文集』六卷、『統集』二巻本に収められる潘昉序（南宋端平三年（一二三六））に、白玉蟾の弟子である彭耜が白玉蟾の作品を収集して「得四十卷」とあり、さらに白玉蟾別集の歴代の刊本のうち、巻数の多いものでも『重編海瓊玉蟾先生文集』六卷、『統集』二巻、『新刻瓊瑄白先生集』十四巻など、巻数が「巻三十九」に届くものがないことから、内閣本の依拠したテキストが、現存しない四十巻本であった可能性を指摘している。¹⁾

白玉蟾別集の本邦への来歴は未詳であるが、芳賀幸四郎氏はその著書である『東山文化の研究（上）』²⁾において、当時の禅林で閲覧された漢籍の一つとして、「白玉蟾文集。海瓊集。」を挙げ、相国寺の瑞溪

周鳳（一二三九～一四七三）による日記『臥雲日件録』、相国寺の万里集九（一四二八～一五〇七？）の別集『梅花無尺蔵』、相国寺の桃源瑞仙（一四三〇～一四八九）による『蠹窓夜話』、東福寺の策彦周良（一五〇一～一五七九）による『蠹測集』に多く引用の痕跡をとどめていると、詳らかに指摘する。各禅僧の引用した白玉蟾別集については後日検討することとし、芳賀氏がさらに『中世禅林の学問及び文学に関する研究』³⁾（三〇一ページ）にて紹介した、万里集九による「為人写海南先生白玉蟾詩集題其後」（『梅花無尺蔵』第一）⁴⁾の章題が示すように、万里は白玉蟾の句を書写していたことが伺え、「白玉蟾集抄」一卷もその一つであろう。万里集九の跋文が存する、乃至は万里に縁のある可能性を有する白玉蟾別集の抜書は、以下の三本が管見に入った。

○太田晶二郎氏家蔵本（以下、太田本と略す）

室町中期末頃の筆跡で、万里集九の跋文「梅庵漆桶万里涉獵此集三遍、于洛、于尾、于武。長享丁未仲冬十七江戸城梅花無尺蔵下書之」があり、続いて「這跋萃、於西京竜安寺支院牧雲室下、吹列麈納草書畢、錯字漫字、願期乎後人改削者也、紙数以上卅一枚」、「右ノ落処」と肩書きして「跋鶴林問答集」の一章が追加されている。さらには天

正から慶長頃と思しき、「洛北瑞泉菴常住 墨紙參拾一枚 美陽箇也 叟^印朱^印」の奥書もある。この天正から慶長頃の奥書に、龍安寺の塔頭である「瑞泉菴」の名が記されることから、この本が龍安寺系のものである可能性が高い。なお、この持ち主である太田氏は「太田本」と同一の抜書が米沢図書館にも一本ある」ことを把握していた。

右記の情報はすべて、玉村竹二氏『五山文学新集』巻六、「万里集九解題」⁵⁾によった。なお、筆者は太田本を未見であるため、その異同については結論を下さない。

○市立米沢図書館蔵本『海瓊白先生集』一冊（以下、米沢本と略す）

題簽に「白玉蟾集」とあり。冒頭に南宋端平三年（一二三六）、潘枋（正しくは枋）による「海瓊白玉蟾集序」が附される。末尾には万里集九の跋文「梅庵漆桶万里涉獵此集三遍于洛于尾于武。長亨丁未仲冬十七江戸城梅花無藏下書之」⁶⁾があり。序に次いで「海瓊白先生第一」、また末尾の跋文の直前には「海瓊白先生文集卷第四十終」とあることから、四十巻本からの抜き書きであることが察せられる。なお、筆跡から万里集九の自筆本ではなく、転写本であるとされる。

○国立公文書館内閣文庫蔵『海瓊白先生詩集』一冊

題簽に「海瓊集抜書 全」とある。冒頭に「海瓊白先生詩集卷第一」と記されて以降、「卷之二」、「卷之三」、……巻二十三には「海瓊先生文集二十三」等と、巻十四・十五・十九・二十八・三十二・三十四を除いて巻数がほぼ全て記され、巻三十三については二回記されている。そして、最後の巻数は「卷之三十九」である。

太田本については実物およびその内容についての確認ができていな

いが、それと同様であるという米沢本をデジタルアーカイブによって確認したところ、内閣本にはほぼ巻ごとに附される巻数が、米沢本には附されていないことがわかった。一見したところ、二抄本において抄出される作品が同じであっても、抄出される聯が異なるなど、その差異は巻数の記録の有無に留まるものではない。内山氏は、内閣本を「もとは江戸城内の『紅葉山文庫』に所蔵されていたものなので、この写本も万里の抜き書きと同じものである可能性が高い」として、万里集九は江戸城の築城者である太田道灌の庇護下にあったため、江戸城の「紅葉山文庫」、さらには内閣文庫に伝わった内閣本を万里ゆかりのものと考えるのは妥当といえよう。さらに芳賀氏が指摘したように、万里は同様の抜き書きを、幾つか残していることがその根拠を裏打している。しかしながら、内閣本には万里の跋文がない。

筆者が新たに調べたところ、同じく万里集九による黄庭堅詩の抄物『帳中香』⁷⁾にみえる、白玉蟾の抜き書きが僅かながら確認でき、その一部は内閣本の抜書と一致した。以下の表はその一致状況をまとめたものである。字は通行字体に改め、『帳中香』と内閣本の一致する箇所には傍点を適宜附した。また、内閣本が『帳中香』と同じ詩を抜き書きしながらも、抜き書きした聯が異なる場合は、内閣本抜書を（ ）で括った。ほか、後述の内閣本の凡例に従った。

なお、『帳中香』は公益財団法人東洋文庫蔵本を用い、訓点は略した。照合すれば、表の1は、内閣本の抜書は『帳中香』と比べて句数が足らず、表の2は内閣本の提示する巻数と異なる。表の3は、引用箇所は一致するが、『帳中香』では題を「松岸序」とするのに対し、内閣本は「松岩序」として、一字違えている。また、表の7において、『帳中香』と内閣本が同じ作品を引用するが、抜き書きする聯が異なっている。この『帳中香』における引用の七条のうち、五条が一

<p>「帳中香」巻数 及び黃庭堅詩名</p>	<p>「帳中香」における 白玉蟾作品引用とその周辺</p>	<p>内閣本巻数 及び作品名</p>	<p>内閣本抜書</p>	<p>注記</p>
<p>1 巻一「演雅」</p>	<p>海瓊白先生文集第十八、觀物、蜂、占、薔薇、封食邑、蟻、侵、螺、蠟、借、軍、須、雨天風急鳩呼婦、水国煙寒雁喚奴、曉鶯溪国腹、暮蛛借屋計家生、不羈野馬空中騁、無喘蝸牛壁上耕。</p>	<p>巻十八 「觀物」</p>	<p>蜂、占、薔薇、封食邑、蟻、侵、螺、蠟、借、軍、須</p>	<p>米沢本 觀物 曉鶯守溪国腹、暮蛛借屋計家生、不羈野馬空中騁無喘蝸牛壁上耕</p>
<p>2 巻一「演雅」</p>	<p>白玉蟾集十九、虱、題也、禪裡無供給、禪頭、俛、受、賜、降、之、湯、沐、罷、投、置、不、毛、邦。</p>	<p>巻十三 「虱」</p>	<p>禪裏無供給、禪頭俛受降、賜之湯沐罷、投置不毛邦</p>	<p>米沢本、なし</p>
<p>3 巻一 「題宛陵張待季曲肱亭」</p>	<p>白玉蟾集第三十五、松岸序云、松風說法、蘿月談空、云々。</p>	<p>巻三十五 「松岩序」</p>	<p>（上略）： 松風說法、蘿月談空、 ：（下略）</p>	<p>米沢本 （上略）：松風說法、蘿月談空 ：（下略）</p>
<p>4 巻二 「寄裴仲謀」</p>	<p>白玉蟾詩、朝來花万福、鶯奏起居声。</p>	<p>巻二十一 「春晴」</p>	<p>朝來花万福、鶯奏起居声</p>	<p>米沢本 春晴 朝來花万福、鶯奏起居声</p>
<p>5 巻六 「詠雪奉呈広平公」</p>	<p>白玉蟾詩中、有月娑々之語。蓋娑娑之儀歟。</p>	<p>未詳</p>	<p>未詳</p>	<p>未詳</p>
<p>6 巻九 「題伯時画嚴子陵釣灘」</p>	<p>白玉蟾詩云、許瓢還大堯天小、嚴瀨心高漢坐卑。</p>	<p>巻十 「寄桂隱」</p>	<p>許瓢却大堯天小、嚴瀨心高漢座卑、何人桂樹中間隱、莫作南陽一睡驪凤世已償霖雨債我身今結水雲知</p>	<p>米沢本 奇樵隱 玕瓢却大堯天小、嚴瀨應高漢座卑</p>
<p>7 巻十一 「六月十七日昼寢」</p>	<p>白玉蟾詩云、直借僧房作宰予。蓋以夢為周公之類也。</p>	<p>巻二十 「湖上偶成」</p>	<p>（総属霜鷗雪鷺天、云 一片紫菱開十字）</p>	<p>米沢本 湖上偶成 湖天晴曠万緑虚、暫借僧房作宰予</p>

致、一条が同じ作品を引用しながら聯が全く一致せず、さらにもう一条は出典が見つけられなかった。

紙幅の都合上、今回は詳らかに述べないが、万里集九の別集『梅花無尽蔵』にも内閣本と一致する引用が散見された。したがって、内閣本は万里の跋文を有さないが、万里との関係を否定しにくいものであることが想定される。結論を急げば、これは内閣本を万里集九ゆかりのものとする、先述の内山氏の説を裏付けする可能性がある。

もう一つ、この内閣本の特徴を述べるとすれば、卷三十六より卷三十九にかけての抜き書きが、長短句（詞、詩余）であることだ。これは米沢本も同様に確認ができるものであるが、長短句の本邦禅林の受容について神田喜一郎氏は、

填詞は宋代文学の精華である。然るにその填詞が、宋代文学の著しい影響を受けたわが五山文学の中に、少しも痕跡を留めてゐないのは何故であらうか。⁹⁰

とし、さらには中本大氏も、右の神田氏の言及を引いた上で、

一瞥する限りにおいて、五山学僧の別集に詞牌を掲げたものや、填詞の体を成す作品を見出すことは困難である。⁹¹

と前置きして李煜の長短句の影響について論じている。この時代、長短句受容は詩話である『茗溪漁隱叢話』や韻類書である『韻府群玉』等を通して僅かなされた形跡があるが、今回の内閣本のように長短句が別集からの抜書として現存するものは、やや珍しいものではないかと考えられる。

近年、大陸でも白玉蟾別集の排印本が社会科学文献出版社や宗教出版から発行され⁹²、さらに劉亮氏著『白玉蟾生平与文学創作研究』等の研究書も出ているが、日本の抄本の存在に言及したものは管見の限りない。今回は、内閣本の依拠したであろう四十卷本と後世の版本との関係を調査するため、蓬左文庫蔵、朱権編・何継高校、万暦年間刊『重編海瓊玉蟾先生文集』（以下、蓬左本と略す）を用いて、巻数および文字の異同を調査した。重編本は書名の示すとおり、万暦刊の「重編」であるため、本来ならば、より古い刊本を用いるべきではある。しかしながら、そもそも「重編」以前の正統七年本『海瓊玉蟾先生文集』が現存せず、元から実在しないとする説もある⁹³。筆者は他版本を未見であるため、他版本との比較については待考とし、便宜上、蓬左本を用いた。

また、内閣本に抜き書きされた作品は、出典未詳の僅かな作品を除けば、『重編海瓊玉蟾文集』六卷、『統集』二卷のうち、すべて『重編海瓊玉蟾文集』の正集六卷に全て収められており、『統編』二卷には及んでいないことが判明した。なお、米沢本を調査した限りでも、同様の結果が得られた。しかしながら、文字の異同では更に考察が必要な箇所が見受けられるため、米沢本の翻刻も含めて、後日改めて稿を起こしたい。

内閣本は、錯簡と思しき箇所や誤字脱字はあるものの、特に巻数を記した、白玉蟾別集の古い形態を伝えるという点においては、貴重な資料であることには変わりない。本稿は本邦禅林における漢籍受容研究の一端を解明することを期す一方で、散逸した南宋・四十巻本のテクストを垣間見る材料となり得る側面をも併せ持つものである。

凡例

底本は国立公文書館内閣文庫蔵『海瓊白先生詩集』（内閣本）とした。
 翻刻の凡例は以下である。

・葉数とその表裏については、【一】を用いて各々示した。

例：【1表】、【2裏】

・行数・列数・間隔・句読点・訓点は底本に従った。また、場合によっては句読点の抜けや誤りがあるが、底本にすべて従った。

・原則として異体字及び俗字は通行する字体に改めた。

・「雀（鶴）」、「菊（菊）」、「連（蓮）」等の略字体も通行する字体に改めた。

・踊り字「々」はその上字に改めた。

・「云」はそのまま再現した。

・朱引・圈点・傍点は略した。

・ミセケチ等は訂正せずに再現した。

補注は主に『重編海瓊玉蟾先生文集』（蓬左本）との異同を示した。
 凡例は以下である。

例：○飛仙吟（飛仙吟送張道士）――

卷四・歌行。「探」作「採」。「伏」作「仗」。

●玄関頭秘論（屏睡魔文）――

卷一・文。「玄関頭秘論」（卷一・論）の題が掲げられているが、「墨松」より「都尉」は、「屏睡魔文」と一致。「墨」、「黒」。

「一」より上に示した、題（見出し）の凡例は以下である。

・題が内閣本と蓬左本がほぼ一致する場合は○を附した。

・内閣本が題を欠く、乃至は内閣本の題と蓬左本の題が著しく

異なる場合は、●を附し、蓬左本の題を（ ）内に示した。
 ・未詳のものについては、*を附した。

「一」より下に示した箇所凡例は以下である。

・巻数と分類は、蓬左本によった。なお、蓬左本の巻六は二冊に分かれるため、便宜上一冊目を「卷六前」、二冊目を「卷六後」とした。

・二首以上の連作は、抜き書きされた箇所を「其一」、「其二」等と示した。

・文字に異同がある場合は、「」で示した。

【1表】

海瓊白先生詩集巻第一

古詩

紅岩感懷 風悲兮花落、鳥哀哀兮水歎歎

孤鶴辭 行啄林芥間、断翅誰与医

楓葉辭 丹楓隕葉紛墮飛、手揮糸桐逐斜暉

紅樓曲 為我収眼纈、織得愁成疋

孤鴻曲 得非往者失填簾雲情月思哀独婦

悲秋辭 昼鳥夜兔忙如箭、秋光漸入蘆花岸、

〔補注〕○紅岩感懷（紅岩感懷四首）――卷三・古詩。／○孤鶴辭――卷

三・古詩。「芥」作「莽」。／○楓葉辭――卷三・古詩。「其三」。「逐」

作「送」。／○紅樓曲――卷三・古詩。／○孤鴻曲――卷三・古詩。／○

悲秋辭――卷四・歌行。

【1裏】

星霜磨老道人心、满目世人紛如蟻、感今慨昔
 令人愁、乃知宋玉非悲秋、江山紫翠饒漢唐、風
 物不復追商周、云此身飄飄如浮塵、身体髮膚
 皆他人云、

題歐陽氏山水後 洞門紫翠交相映、林幄山屏
 更清勝、何人作此無声詩、展開如入溪山鏡
 永州花月樓 春風夜飛招月檝、檝月司花月供
 職、月落千嬌百媚叢、諸花為月妍為容、樓東

○悲秋辭、続き―「浮」作「游」。／○題歐陽氏山水後―卷四・歌行。
 ／○永州花月樓―卷四・歌行。

【2表】

月照樓西皎樓西月向樓東咲、月与花戲天中
 流、花与月浴江中浮、月皆不管春風怒、花為月
 歌為月舞、舞者媚緑歌嬌紅、争怜妬寵驚春
 風、出有入去舟變異、花意不曉月之意、江花惱
 天天花愁、東樓月掩西樓羞、花亦自睡花自醉、
 月倦欲歸婦未至、却縁暁鏡呼月回、月回花醒
 花不知

明妃曲 君王有鳳偶、不数芹边燕

○永州花月樓、続き―「咲」作「笑」。「怜」作「憐」。「去」作「無」。
 「花意」作「花竟」。「暁鏡」作「暁鐘」。／○明妃曲―卷三・古詩。

【2裏】

景德觀枕流 寒泉瀉破青山腸、云山澗金童嘯
 欲飛、澗底銀蟾可掬、云清淨耳觀絕絃琴、云広
 長舌相無生曲

黄葉辭 兩鬢沾吳霜、云晚汀慨鴻雁、夜浦
 羞鴛鴦

卷之二

長歌行 肩依洪崖右道在靈運前、云魚虫猶可
 仏、鷄犬皆登山、云為舜不無地、晞顏俛有天

○景德觀枕流―卷四・歌行。「腸」作「腹」。「可掬」作「清可掬」。
 ○黄葉辭―卷三・古詩。／○長歌行―卷三・歌行。「山」作「仙」。

【3表】

將進酒 一月二十九日醉、百年三万六千場、云
 玉蛆初泛松花露、瓊螺再薦椒花雨、云
 米大功名何足数、鴻毛利害辛自苦、云
 臥雲庵醉後 瑶月影松天靜淡、琅風韻竹夜蕭
 森、孔明終久須朝日、安石不來誰作霜、云
 秋思 雲氣深中有碧鴻、云一写此詩聊問秋、江
 楓岸柳替人愁

希夷堂 朝随扶桑日影起、暮趁崑崙雲脚伏

○將進酒―卷四・歌行。注「椒―香酒也」なし。「辛」作「奚」。／
 ○臥雲庵醉後―卷四・歌行。／○秋思―卷四・歌行。／○希夷堂―卷
 三・古詩。目錄に詩題なし。「日影」作「日頭」。

【3裏】

姚魏堂 青帝收成功乃王木芙蓉、姚魏久變

理功成盍受封、向已魁梅花、此当相芍藥、桃李

寂不言、蜂蝶寒無枕

秋宵辭 秋声酸我鼻、秋色断我腸云、吸風

咀月露云、如彼深閨婦、暗起鴛鴦思云、

飛仙吟 夜騎玉鼈探明月、藥殿瑤台寒徹骨、

三十六天不閉門、風吹琪花散飛雪、簫韶鳴処隊伍

多、八万霓裳歌一闋、火鈴將軍呵一声、左右

○姚魏堂—卷三・古詩。／○秋宵辭（秋宵辭十二首）—卷三・古詩。

「秋声」より「我腸」、「其三」。「吸風咀月露」、「其十」。「如彼」より

「鴛鴦」、「其十二」。／○飛仙吟（飛仙吟送張道士）—卷四・歌行。「探」

作「採」。「伏」作「仗」。

【4表】

万真聳毛髮、云奏云臣是雷霆脚、云瑶童玉

女却問予云、

詠雪 処処癡煙纏草舍、飛廉截住陽春赦

卷之三

述古 黍大青混沌、此即万化鞘、乾坤兩餅分

日月双丸跳

孤雁嘆 孤雁声嘒嘒憂如司馬牛

聞鶴嘆 霜翎雪羽臙脂頂、玄裳翠距白玉頸

○飛仙吟、続き—「瑶」作「瓊」。／○詠雪—卷四・歌行。「癡」作

「擬」。／○述古（述古三首）—卷三・古詩。「其一」。／○孤雁嘆—卷

三・古詩。／○聞鶴嘆—卷四・歌行。

【4裏】

清勝軒夜話 寒雲蠹星鎖翠空

冥鴻辭 夜來烏鵲栖寒楓、蒼天万里煙霞濃、

海神淘湧翻奴濤、風伯鼓舞吹冥鴻、霜翰不

入矰繳内、星眼直射煙霄中、云來時蹤跡度衡

湘、昔者音信鎬豐云、

有所思 蒼官無祿花有封、花王開国昨春風、云

不念蒼官秦大夫竹君亦嘖梅兄聾云、

送珊上座帰育王 拄杖挑起空中雲、鉢盂灑上波心月

○清勝軒夜話—卷四・歌行。／○冥鴻辭—卷四・歌行。「栖」作「棲」。

「奴濤」作「怒濤」。「音信」作「音信通」。／○有所思—卷四・歌行。

「昨」作「昨」。／○送珊上座帰育王—卷四・歌行。

【5表】

送李道士謁仙行 誰種蟠桃核、花開崑崙峯云、

手持三尺霜浩气眇太空云、

端午述懷 蛙市一散万籟静、夜寒愁吟

正無思、青灯喚人補残睡云、

仙岩行 虎声入耳猿声又云、

贈陶琴師 惠然為我鼓長琴、声裏胡笳十八拍

卷之四

杜鵑行 兩行茅舍蒼苔淚滴破浣花溪上詩

○送李道士謁仙行—卷三・古詩。「眇」作「渺」。／○端午述懷—卷

四・歌行。／●（有所思）—卷四・古詩。「夜寒愁吟正無思、青灯喚人補残睡」の句は、「有所思」にあり。「灯」作「燈」。／○仙岩行—卷四・歌行。／○贈陶琴師—卷四・歌行。／○杜鵑行—卷四・歌行。「苔」作「煙」。

【5裏】

步虚四章 大帝昇煙殿、東皇駕鳳軒、
方会琪花宴、遽听青鸞歌、

浙江待潮 六角扇起解熱風、三杯酒為澆詩雨、

楼前雨霽 風起竹似醉、

病起 我愛山水清淘洗詩俗、

題楊家酒樓 碧落散即下人世、騎雲鞭霆日日

醉、楊家三杯松花醪、眼花渾不醒天地、知有溪

山無名利、鉄笛吹破西山翠

○步虚四章—卷三・歌行。「大帝」より「鳳軒」、「其一」。「方会」より「鸞歌」、「其三」。「大」作「太」。／○浙江待潮—卷三・古詩。／

○楼前雨霽—卷三・古詩。／○病起—卷三・古詩。「詩俗」作「詩中俗」。／○題楊家酒樓—卷四・歌行。全。「即」作「郎」。

【6表】

山月軒 醉持玉盞吞金餅

覺非居士 何処招提最近傍、早暮送鐘齋送鼓

丹山碧水我樓觀、蒼椿翠檜我幢節、客来到

此蟄仙庵、披蒙茸兮登巉岩、

食生菜 殘風刺雨放春晴、久醉欲醒何由醒、

滿園萋萋間青蔓、火急掣鈴呼庖丁、細膾

雨葉縷風茎、醉紅薑紫銀監明、
題潜庵 已把功名等風絮、鶴鬢星冠懶成趣

○山月軒—卷四・歌行。／○覺非居士（覺非居士東菴甚奇觀玉蟾曾遊其間醉吟一篇旧風以紀之）—卷四・歌行。「蟄仙庵」作「蟄仙菴」。／○食生菜—卷四・歌行。「青蔓」作「蔓青」。／○題潜庵（題潜菴）—卷四・歌行。「鬢」作「髻」。

【6裏】

好向青山白雲中、参取翠竹黄花句、

友人陳標得楊補之三味賞之以詩 梅花不清是

水清、最是一枝溪上橫、梅花不明是雪明、凍

折老梢飄碎瓊、梅花不暗是雨暗、隔籬和雨

粘珠糝梅花不淡是煙淡、鎖江村煙慘慘、

梅花不枯是霜枯、霜後不俗霜前塵、梅花

不瘦是月瘦、月下徘徊顔孤峭、梅花不寒是

風寒、落英飛上玉欄干、梅花不濕是露濕、

○題潜庵、続き。／○友人陳標得楊補之三味賞之以詩—卷四・歌行。「顔孤峭」作「孤影峭」。「欄干」作「闌干」。

【7表】

冷蘂含羞曉鳴咽、雪明偏見梅花魂、筆下

六花堆爛銀、水清偏見梅花骨、筆下一溪寒

浸月、煙淡偏見梅花 筆下一片黄昏晴、雨

晴偏見梅花貌、筆下娉婷向人咲、月瘦偏見

梅花真、筆下蟾蜍弄早春、霜枯偏見梅

花操、筆下飛霜送春耗、露湿偏見梅花
奇、筆下冷蘂垂百排、風寒偏見梅花意、
筆下蕭騷奪雲氣、有人身心似梅花、写出

○友人陳標得楊補之三昧賞之以詩、続き—「煙淡偏見梅花」作「煙淡偏見梅花情」。「咲」作「笑」。「百排」作「百排」。「蕭」作「簫」。

【7裏】

清浅与横斜、補之若見亦驚嗟、機杼迥然
別一家、繁処不繁簡処簡、雪迷暎色月
迷逸、更得一些香氣浮、陽春總在君筆頭

卷之五

嘗梅感興 今夕幽人換詩骨、花月即是詩衣

鉢云銀色世界生梅花、水晶宮中明月華云、

題三山天慶觀 瑶妃侍雲笈、羽童舞金翹云、

宝炉烹日月、鉄尺鞭雷霆、暎煉西山雲、夜煎北斗星

○友人陳標得楊補之三昧賞之以詩、続き。／○嘗梅感興（賞梅感興）

—卷四・歌行。／○題三山天慶觀（題三山天慶觀三首）—卷三・古詩。

「瑶妃」より「金翹」、「其一」。「宝炉」より「斗星」、「其三」。「宝炉」作「宝爐」。

【8表】

鶴謡 鶴者胎化之禽兮明明、後玄鶴兮、前蒼

鷹、冲若舞兮、太清鶴者、還丹之使兮洋洋、

縞雲衣兮玄綺裳、唳以下兮、柳陽鶴者、

冲空梯兮冥冥、朱霞弁兮翠綿綳、浩然

婦兮、遼東鶴者、飛仙之御兮英英十二裙
兮、六六翎翻而来兮華亭

荷風薦涼山乃于御風台者因賦古意示諸同我
黄昏六點星、飛墮天南方、蕩蕩無辺秋、水色

○鶴謡（鶴謡八首）—卷三・古詩。「鶴者胎化禽」より「太清」、「其一」。「鶴者、還丹」より「柳陽」、「其二」。「鶴者、冲空」より「遼東」、「其三」。「鶴者、飛仙」より「華亭」、「其四」。「冲空梯」作「冲虚之梯」。／○荷風薦涼山乃于御風台者因賦古意示諸同我（荷風薦涼乃于御風台者六因賦古意示諸同我）—卷三・古詩。

【8裏】

涵天光、紫壺如朱槿、鮮妍敵露霜、紫瓊如芙

蓉、風韻何清涼、紫煙如芝蘭、澗谷含幽芳、

紫雲如木犀、内秘天家香、鶴林如甘菊、端可

寿而臧、滿泛九霞觴、与客秋興長、紫清如芰

荷、堪製仙人裳、願言六人者、駕月賓帝傍、先

拝紫皇前、次謁王母房、人間塵埃子、白日空茫茫

贈陳高士琴歌 昨夜西風起白蘋、従前湖海

幾酸辛、感今懷古無限事、拄頰閑思一愴神

○荷風薦涼山乃于御風台者因賦古意示諸同我、続き—「駕月賓帝傍」作「駕月賓帝旁」。／○贈陳高士琴歌—卷四・歌行。

【9表】

一覽亭 蘆荻叢中鷗鷺閑、来往漁舟三兩隻

贈陳高士琴歌 瓊窟先生鼓玉琴一調一弄符

我心、屈平宋玉不可挽、西風黄葉為知音、初聞
如風吹梧桐、次聽如雨鳴芭蕉、凄然如雁声遙
遙温然如鶯暖天天忽而轉調緩復急、海風
吹起怒濤立、夜深星月随蓬山、神官不管蛟
龍泣、頓又換指清而和牡丹芍藥香气多、
露橋月榭風雨夕、如此杜鵑愁奈何、洗洗長

○一覽亭—卷四·歌行。／○贈陳高士琴歌—卷四·歌行。「梧桐」作
「梧桐」。「随蓬山」作「墮蓬山」。「月榭」作「月榭」。「洗洗」作「浩
浩」。

【9裏】

風送急雨、孤鴻落寒渚、昏昏月色老猿啼、
藹藹風光新燕語、又如晴鶴唳蒼煙、条似寒鴉
噪晴川、良宵砌畔響秋蛩、清昼林間悲風
蟬、我思此声不堪比、使人欲悲復欲喜、五月
葛亮渡瀘溪、九月荆軻過易水、
吾身不翻心亦翅、雪肌玉膚水霜齒、
時以瑤琴鳴五霞、一声彈落瓊花台、
卷之六

○贈陳高士琴歌、続き—「孤鴻」作「寂寞孤鴻」。「寒鴉」作「寒
鴉」。「花台」作「台花」。

【10表】

道過成蹊庵、偶成旧風一篇 身裏蓬萊十二樓、
杖頭雲水三千界、
琵琶行 山水窟中安樂国

題諸葛繡香園 底事啼鶯似罵春、山川失

色花神報、云茉莉避席方夏闌、芙蓉彈

冠已秋晚、面蘭琢句詩清神賓菊開樽意

蕭散、云主人青眸終日阮、

丫頭岩 君不見、武夷九曲溪之東、三峯号為

○道過成蹊庵、偶成旧風一篇（道過成蹊庵舊偶成旧風一篇）—卷四·歌
行。／○琵琶行—卷四·歌行。／○題諸葛繡香園—卷四·歌行。「啼
鶯」作「鶯啼」。「神報」作「神報」。／○丫頭岩—卷四·歌行。「為」
作「為玉女峯」。

【10裏】

當時嫁与大王峯、至今櫛雨梳風、又不見、廬
山三疊江之湄、大姑小姑凡兩磯、小姑聘与彭
即磯、至今波眼浪眉、湘夫人寂寞湘水滨、巫
山女窈窕巫峡浦、亦有情者亦無情者、鬼物
託物以為靈、俗子謂之山石精者、来丫頭岩
下坐、已覺此身本非我、朝雲暮雨、或有之、
年来心下已無火、兩峯相並各巒峯、对人
長是嬌媚色、過者見此如双鬢、雲鬢霧

○丫頭岩、続き—「櫛雨梳風」作「櫛雨而梳風」。「彭即磯」作「彭郎
磯」。「波眼浪眉」作「波眼而浪眉」。「亦有情者」作「亦有有情者」。
「亦無情者」作「亦有無情者」。「俗子」作「俗子」。「精者」作「精
吾」。

【11表】

鬢蒼苔髮我来適值天方秋、孤懷暗抱不能愁、岩下行人幾回老、此岩依旧喚丫頭

妾薄命 脩昼勞悵想云

定齊 積氏惠之源、儒者誠之骨云

題語溪 截祿山骨為之字、瀝祿山血為之辭云

偶成 吐吞風月一壺酒、拈弄溪山万首詩

酌月亭 夜深花前月落酒、花前拳酒月在

手、一杯嚙下月一團、併把青天都吸了云

○丫頭岩、続き。／○妾薄命―卷三・古詩。蓬左本の題下注に「有感

先師故作」。「脩」作「修」。／○定齊（定齊為楊和甫賦）―卷三・古詩。

／○題語溪（題語溪）―卷四・歌行。／○偶成（道過成蹊菴偶成旧風

一篇）―卷四・歌行。／○酌月亭―卷四・歌行。

【11裏】

雲游歌 初到家山辞骨肉、腰下有錢三百足云

明朝早饑又起行、只有隨身一柄傘云

卷之七

問月台蘇竹莊同賦 千山万山翠交鎖、何処

瑤台天上墮、台前吟久忽登樓、樓前開窓天

入座、留窓且莫放天婦問天明月來時青天

推月雲表、使我对月自問之、試問月中玉妃

子、人言昇妻無乃是夜夜清風為作媒、欲把

水姿嫁誰氏、桂子婆婆今幾秋、藥宮珠

○雲游歌―卷四・歌行。「到」作「別」。／○問月台蘇竹莊同賦―卷

四・歌行。「留窓」作「留天」。「來時」作「來幾時」。「雲表」作「上雲表」。

【12表】

殿何年修、吳剛執斧胡不休、玉兔銀蟾猶

更留、我聞明星排空聽仙樂、又聞李白騎鯨

水中捉、至天上弄銀盤、依旧万星攢碧

落、但見一輪月在天如何、千江千月、円月還

似水、水似月、千眼所見、皆同然、今方得月為詩、

似月亦有情、但無語、延月不久竟掃我欲乘

風游玉宋 煉藥壇故事未詳載之云

秋思 万蠶懼寒皆向蟄云、雨痕印水如撮纈、虫

○問月台蘇竹莊同賦、続き―「明星」作「明皇」。「仙樂」なし。「不

久竟」作「不久月竟」。「玉宋」作「玉宇」。「煉藥壇故事未詳載之」な

し。／○秋思―卷四・歌行。

【12裏】

声入夜如彈鑷云

贈紫岩播庭堅 無愁是雲愁、無羞是雲羞、

我非雲与雪、何以白我頭、日出雪自消、雨晴雲

亦休、盛年輕棄擲、不及且娛遊

西湖走筆 接踵李杜壇、信威屈賈壘云

脩竹森群賢、瑞蓮立万妓云

人世水上萍世事江頭楓云

丹丘高会 人生易夕陽

○秋思、続き。／○贈紫岩播庭堅（贈紫岩播庭堅四首）—卷三・古詩。
 「其三」。末尾の「娛遊」は細字で「遊」。
 ○西湖走筆（西湖大醉走筆百韻）—卷三・古詩。「脩竹」作「修竹」。／○丹丘高会（丹丘同王茶幹李臯尉高会）—卷三・古詩。

【13表】

卷之八

贈周龐齋居士 召公八十入為相、太公八十出為將、
 趙州八十方行脚、鐘離八十離塵劫、古者八十
 方施為、何況百歲七十稀、居士而今七十七、黃
 髮、皓齒、脩龐眉漢時奕也、七十七紅炉煉就
 一朱橘、晋鄭思遠七十七、方与葛洪一相識、
 我知居士神山、蓬萊路上空明月、人間宿
 留不肯歸、性海淡淡寒潭瑩、心天耿耿

○贈周龐齋居士—卷四・歌行。「脩龐眉」作「修龐眉」。「奕也」作「樂也」。「神山」作「神仙人」。「明月」作「月明」。

【13裏】

銀河靜、有一孟子耕書田、有一季子鑿筆陣
 屈原生前一枝揖大吳江頭五侯廟、水魂
 雪魄不可招、
 游簡寂觀 落花称意紅、芳草無心綠、
 懷仙吟 自起凭樓眉自顰、
 結草 緑苔封曉雲、蒼藤縛月夜、
 游簡寂觀 惠遠同種蓮、淵明共採菊、当年学
 阿弥飛神到天竺、

○贈周龐齋居士、続き。／●（題劉心月劉妙清入水而逝我来吊以一章）—卷四・歌行。「屈原」より「不可招」まで、「題劉心月劉妙清入水而逝我来吊以一章」にあり。「五侯廟」作「伍侯廟」。／○游簡寂觀—卷三・古詩。／○懷仙吟（懷仙吟二首）—卷四・歌行。「其一」。／○結草（結菴）—卷三・古詩。／○游簡寂觀—卷三・古詩。

【14表】

祈雨歌 天地聾日月瞽、人間元旱不為雨、
 武当山 他年君自武当回、惠我数枝石燈草、
 石壁庵 急呼南海神、采采扶桑花、
 卷之九

北山 馭酒沾来满满斟、輕陰閣風雨声軟、
 淡霽籠雲日影沈、
 感物 月生看柳瘦風起咲花癩、事業三杯酒、
 勲名九軫丹、神凄身外蝶、夢黯鏡中鸞、

○祈雨歌—卷四・歌行。「元旱」作「亢旱」。／○武当山（贈玉隆王直歲游武当山）—卷四・歌行。／○石壁庵（明発石壁菴）—卷三・古詩。／○北山—卷四・律詩。「沾来」作「沾来」。「陰閣」作「雲閣」。／○感物—卷三・律詩。「咲」作「笑」。

【14裏】

午飯羅漢寺 煙鎖蒼松遮寺額、風搖翠竹
 撼檐牙、
 春日遣興 蜂王遣使使花塢、蟻陣分屯屯華門
 詩山酒海一乾坤
 乞紙寄諸葛桂隱 翰墨膏肓二十年、纔親

筆硯便垂涎、一日禿徐千兔穎、霎時磨尽万松煙
春日即事 微雨續天煙、織雪、寒風簸水月
篩梅、壽鳩索婦花前咲、鰥燕呼雛柳外哀、

○午飯羅漢寺—卷四・律詩。／○春日遣興—卷四・律詩。／○乞紙寄諸葛桂隱—卷四・律詩。「禿徐」作「禿除」。／○春日即事—卷四・律詩。「咲」作「笑」。

【15表】

見爛翁 一掬精神迥出塵、爛翁自是不凡人、
淵明松菊徑猶綠、靈運池塘草正春、已把
芝田栽枸杞、不將苔砌輾蒲輪、家伝衣鉢
掃龍鳳、自指冰壺嗣穎浜

早秋 暗蛩彈籥知何処、

八月三日即事 鴉翻千点墨、雁草兩行書、

清貧軒 有時拄杖青松畔、便是人間快活仙

贈松士岳鬼眼 眉峯肩井額坡陀、此相曾經鬼眼過、

○見爛翁—卷四・律詩。「輾蒲輪」作「展蒲輪」。／○早秋（早秋諸友真率相聚）—卷四・律詩。／○八月三日即事—卷三・律詩。「兩行書」作「數行書」。／○清貧軒—卷四・律詩。「拄杖」作「挂杖」。／○贈松士岳鬼眼（贈相士岳鬼眼）—卷四・律詩。

【15裏】

草亭偶書 琴彈十二欄干月、酒漉三千世界秋、
復盧良庵韻 擬占朝班最上頭、官情冷似一天

秋、風花雪月千金字、水竹雲山万户侯、

謁雫都靈濟大師 雪裏 僧已寂然、不知香
火幾何年、慙慙琢雪彫氷話、懺悔嘲風哢
月窓、

春夢 所喜江山無病痛、可憐故旧半消磨

呈沈周知 霜雁貼天飛去、

○草亭偶書—卷四・律詩。「欄干」作「欄杆」。「酒漉」作「酒洗」。／○復盧良庵韻（復盧良菴韻）—卷四・律詩。「官情」作「宦情」。／○謁雫都靈濟大師—卷四・律詩。「雪裏 僧」作「雪裏僧伽」。慙慙作「殷勤」。「氷話」作「氷語」。「哢月窓」作「弄月窓」。／○春夢—卷四・律詩。／●呈沈周知（別蔣都轄用婦雁韻）—卷四・律詩。呈沈周知（卷四・律詩）の題が附されるが、「霜雁貼天飛去」の句は「別蔣都轄用婦雁韻」にあり。

【16表】

偶成 釣周釣漢咲人痴、

卷之十

謁鵝湖山大義禪師 粥魚齋鼓響岩丫、

山中 寒鴉幾点餞斜暉

醉高衣 竹月光中詩世界、松風影裏酒生涯、

醒時冷咲楊州鶴、夢見常騎月府臺

知足軒 貪心來往似江湖、田氏三千人食

客、元家八百斛胡椒、更烹侍妾充餼饈、

○偶成—卷四・律詩。「咲人痴」作「笑人痴」。／○謁鵝湖山大義禪師（謁鵝湖大義禪師）—卷四・律詩。／○山中—卷四・律詩。／○醉高衣（醉裏）—卷四・律詩。題は「裏」が「高衣」に分離か。「冷咲」

作「吟笑」。／○知足軒―卷四・律詩。「江湖」作「江湖」。

【16裏】

何似貧顏但一瓢、云

臥病 天際寒雲糊遠岫、松梢煇鶴客枯枝、云

蟠龍庵 五乳峯前第幾峯、碧潭深處有蟠

龍、半岩冷落孔明雨、一枕蕭騷少說風、變化

爪牙君子竹、埋藏頭角大夫松、高人栖此結茅

屋、天下蒼生怨旱虹、

題諸葛桂隱書堂 青松影裏詩鴻雁、白石

岩前酒鶴鴿、筆下驅回千鉄騎、胸中包得

○知足軒、続き―「何似」作「何事」。／○臥病―卷四・律詩。／○

蟠龍庵―卷四・律詩。「栖此結茅」作「凄此結茅」。／○題諸葛桂隱書

堂―卷四・律詩。

【17表】

幾滄溟、云

不赴宴贈丘妓 白鷗不入鴛鴦社、夢破巫山

雲雨空、云

栩庵以冰字韻求大風詩口占 掀開雲幕飛蒼

絮、推出蟾輪碾素瓊、云

寄桂隱 許瓢却大堯天小、巖瀨応高漢座

卑、何人桂樹中間隱、莫作南陽一睡驢、云

夙世已償霖雨債我身今結水雲知

○題諸葛桂隱書堂、続き。／○不赴宴贈丘妓―卷四・律詩。／○栩庵

以冰字韻求大風詩口占（栩庵以冰字韻求大風詩口占）―卷四・律詩。
「素瓊」作「素璫」。／○寄桂隱―卷四・律詩。

【17裏】

舟行西湖詩贈諸友 二十年前雲水身、令

凡七度蹈京塵、云

初冬即事 三徑寒松含宿雨、一川衰草臥

斜暉、孤煙白処、峯露、乱葉紅辺箇

鳥帰、菊花猶着薺金衣、云

梅花二首寄呈彭吏部 惟三更月其知己、此

一弁香專為春、雪中好与誰為伴、只有竹

如君子人、從今桃李皆門士、誰道花中

○舟行西湖詩贈諸友―卷四・律詩。「二十年前」作「二十年来」。「令

作「今」。「蹈」作「踏」。／○初冬即事―卷四・律詩。「猶着」作「猶

著」。／○梅花二首寄呈彭吏部―卷四・律詩。「惟三」より「子人」、

「其一」。「從今」より次葉の「孟嘗」、「其二」。

【18表】

有孟嘗、有懷明珠懷夜月、孤劍匣秋霜、

氣魄今諸葛、襟期旧子房、云

送春 草木從交代、溪山無故新

呈人 柳幄張天槐幕靜、一川漲起麦雲黃

卷之十一

贈鶴林 骨氣秋江月、文章春苑花、片心窮

万法、半語弁千邪、朝罷鷄司曉醉酣蜂封衙、

未為三鳥客、咲指五雲家、騎月游滄海、鞭霆

○梅花二首寄呈彭吏部、続き。／○有懷―卷三・律詩。／○送春―卷三・律詩。／○呈人（春夏之交奉呈胡総領）―卷四・律詩。／○贈鶴林―卷三・排律。「咲指」作「笑指」。

【18裏】

歩太霞^云

飯山 昨夜摘珠人報道、海中失却小蓬萊

醉中賦別 鏡中人瘦如花瘦、湖上春濃似酒濃

閏月五日聞皇帝升遐 喉鶴啼猿怨滿懷、煙葵

露槿淚盈顚、一鉤桂月千林黯、半夜松風万岳哀、

小臣泉石膏肓了、無任水肝玉胆摧

南樓 薄暮鴉翻千点墨、晴空雁草教行書、

赤壁 豪傑已隨霜葉尽、興亡佞付浪花翻

○贈鶴林、続き。／○飯山―卷四・律詩。／○醉中賦別―卷四・律詩。

／○閏月五日聞皇帝升遐（嘉定閏月五日聞 皇帝升遐）―卷四・律詩。

「万岳」作「万壑」。／○南樓―卷四・律詩。「武昌懷古十詠」のうち

「其一」。／○赤壁―卷四・律詩。「武昌懷古十詠」のうち「其三」。

【19表】

奇章台 食鼎歌鐘移楚地貂金珮玉整唐

天、緬懷城鉞熊旂裏、尚有水辭電語伝

即事寄紫元 老雨錢秋菊、孤煙醞暮嵐

天谷庵 柴門時情白雲封

卷之十二

白雲庵 宿霧恋喬木落花粘瘦枝

景泰晚眺 潮花人鬢白、山色仏頭青、夕照雌

黄筆、秋煙水墨屏^云

○奇章台―卷四・律詩。「武昌懷古十詠」のうち、「其六」。／○即事寄紫元―卷三・律詩。／○天谷庵（天谷菴）―卷四・律詩。／○白雲庵（白雲菴）―卷四・律詩。／○景泰晚眺―卷三・律詩。

【19裏】

題南海祠 無心燕子觀秦越有口檐鈴說漢唐、

秋日有懷 暑退涼生蟬有語^云明月清風為活計、

泊頭円照堂 翠長真如竹、黄開般若花

丹詩 金翁跨虎掃瑤闕、蛇女騎龍到雪壺

婦山 一潭湛緑是非海、千尺粉青人我山^云

採藥 五蘊山頭多白雲、白雲深処藥苗芬、威

音王仏随時種、元始天尊下手耘、石女騎竜

拳雨朮木人駕虎摘霜芸、不論貧富在

○題南海祠―卷四・律詩。／○秋日有懷―卷四・律詩。／●（次李侍郎見贈韻）―卷四・律詩。「明月清風為活計」の句は「次李侍郎見贈

韻」にあり。／○泊頭円照堂―卷三・律詩。／○丹詩―卷四・律詩。

／○婦山―卷四・律詩。「呈万菴十章」のうち、「其一」。／○採藥―

卷四・律詩。「呈万菴十章」のうち、「其二」。「拳雨」作「攀雨」。

【20表】

家家在採得帰来各一斤

順昌即事 筆下千機錦、胸中一滴金^云

炉鼎 只茲一点無明焰煉出人間大丈夫

金鼎 九還七返魚游網四諦三空兔入置混

沌何年曾結子虚空昨夜復生花

参同 此香炷向活瞿曇

火候 玉爐火煨天尊胆、金鼎湯煎仏祖肝、

冲拳 弱水蓬萊雖有路、釈迦弥勒正參禪

○採葉、続き―「在」作「有」。／○順昌即事―卷三・律詩。／○炬鼎―卷四・律詩。「呈万菴十章」のうち、「其三」。／○金鼎（金丹）―卷四・律詩。「呈万菴十章」のうち、「其八」。／○参同―卷四・律詩。「呈万菴十章」のうち、「其十」。／○火候―卷四・律詩。「呈万菴十章」のうち、「其四」。／○冲拳―卷四・律詩。「呈万菴十章」のうち、「其九」。

【20裏】

謝鶴林見訪 分明翠竹黃花意、何必紅鉛

華陽堂 花間自舞三台鶴、竹外空歌兩部蛙、云

夏五即事 池畔雨荒靈運草、庭前雲釀洞浜槐

蒲澗寺 一飯招提共僧話、法華經裏問牛車、

華陽堂 曩劫曾為觀大士、前生又是派禪師

偶成 三生骨肉幾回別、万里音書半字無

卷之十三

題迎仙堂 有人問我長生事、默默無言指海棠

○謝鶴林見訪―卷四・律詩。「何必紅鉛」作「何必紅鉛黑永篇」。／○華陽堂（華陽堂二詠）―卷四・律詩。「其一」。／○夏五即事（夏五即事二首）―卷四・律詩。「其一」。／○蒲澗寺（次韻東坡蒲澗寺二首）―卷四・律詩。「其一」。／○華陽堂（呼喚体自述）―卷四・律詩。「華陽堂」の題が掲げられるが、「曩劫曾為

觀大士、前生又是派禪師」の句は「呼喚体自述」にあり。／○偶成（席上偶成呈主簿兄）―卷四・律詩。／○題迎仙堂―卷四・律詩。

【21表】

清明 花間作夢碧蝴蝶、柳外談禪黃栗留

悲秋 鱸魚蓴菜季鷹興、鴻雁蘆花宋玉悲

藍琴士贈梅竹酬以詩 胸中夜雨澆龍幹紙

上春風舞玉蕊、云

送黃心大師 庭前竹長真如翠檻外花開般若香

次韻彬上人見惠 我文柔似三眠柳、君句清於六出花、云

題平江府靈岩寺 仏殿尚存今智積娃宮會館古西施

櫻槎 初非孔聖乘桴志、薄類梁僧渡葦謀

○清明―卷四・律詩。「栗」作「栗」。／○悲秋―卷四・律詩。「季鷹」作「李鷹」。蓬左本が不鮮明であるため、待考。／○藍琴士贈梅竹酬以詩―卷四・律詩。／○送黃心大師―卷四・律詩。／○次韻彬上人見惠―卷四・律詩。「於」作「如」。／○題平江府靈岩寺―卷四・律詩。／○櫻槎（題仙槎寄呈王侍制）―卷四・排律。

【21裏】

争如太乙真人葉、往盪須弥絶頂秋、云

送王侍制自温州移鎮三山 春暖塗歌里詠喧、鶉衣

百結過蘇天、云

為李鼎尉壽 浪萍風絮客他鄉、喜者青春鬢

未霜、到处煙霞成莫逆、如今山水已相忘、子還真

箇為仙尉、我定終身作懶王、云

天籟堂 玲瓏蒼壁。重疊画屏山間山猿笛曉聞

冥漠外松濤夜吼有無間、竹敲竹

○僊槎、続き。／○送王侍制自温州移鎮三山—卷四・律詩。／○為李
 果尉壽—卷四・律詩。／○天籟堂—卷四・律詩。「蒼壁」作「蒼壁竹
 敲竹」。(内閣本の補入記号の指示と一致)。

【22表】

題清虛庵 晨壇凝玉露、夜井浸珠躔、
 寄鄭天谷 漢蕨可羹今已晚、胡麻不飯必須仙
 玉壺件 詩債已還休骨瘦酒冤今醒但眉顰
 題甕齋 鶯吟芍藥一歌女、蟻遶菖蒲万水軍
 立夏即事 我有浮瓜沈李約、諸君同上紫霄峯
 夏夜宿水館 蛙市無声万籟沈、欲眠還醒推藤
 枕驟熱仍寒玉楮衾 愈樓 酒愁花恨無人訴
 賦月 心知人不能如月、月且团円月月逢、
 ○題清虛庵(和張紫微韻題清虛菴) —卷三・律詩。／○寄鄭天谷—卷
 四・律詩。「不」作「未」。／○玉壺件—卷四・律詩。／○題甕齋—卷
 四・律詩。／○立夏即事(夏五即事二首)—卷四・律詩。「其二」。／
 ○夏夜宿水館—卷四・律詩。「玉」作「弄」。／○愈樓—卷四・律詩。
 ○賦月(賦月同鶴林酌別奉似紫瓊友)—卷四・律詩。

【22裏】

次韻紫岩播庭堅 人生不似吳箋厚、世路常如蜀
 道難、兩鬢已將沾雪白、寸心尚自炳楓丹、
 題天寧寺海月亭 昼潮夜汐大江東、

禪余宴寂亭松風 寺有松風堂

和主簿家兄贈別韻 偶爾詩家鴻雁行、為今酒島

鵲鴿徒、

梅花 直須何遜為知己、始知張良似婦人、
 十月十四夜 故人知詩否、空斷早梅腸

○次韻紫岩播庭堅(次韻紫岩播庭堅二首)—卷四・律詩。「其一」。
 「兩」作「雨」。／○題天寧寺海月亭—卷四・律詩。「亭」作「享」。「寺
 有松風堂」は、蓬左本では注に相当。／○和主簿家兄贈別韻—卷四・
 律詩。／○梅花—卷四・律詩。「知」作「信」。／○十月十四夜—卷三・
 律詩。

【23表】

偶作 三身紅菖齒、四智碧芙蓉、
 山居 楮衾滴破松梢露、草履淘穿石縫泉
 双溪館 兩点文章翰墨星夜翱、雙鶴入青冥、
 許天遊見過 蟬外西風風外葉、雁辺落日日辺
 雲、詩仙世界無疆場、一片青山共子分
 蝨 禪裏無供給、禪頭佞受降賜之湯沐罷投
 置不毛邦
 見鶯 翠柳顰眉花閣淚、乳鶯空對婦鳩啼

○偶作(偶作二首)—卷五・絶句。／○山居(山居五首)—卷五・絶
 句。「其二」。／○双溪館—卷五・絶句。／○許天遊見過—卷五・絶句。
 ○蝨—卷五・絶句。／○見鶯(見鶯三首)—卷五・絶句。「其一」。

【23裏】

山齋夜坐 嗅花風入鼻、掬水月浮身

元旦 百花富貴草精神

春興 新花良是旧花非云、鏝風酸雨休相惱云、

風主庭前花寿夭、水占溪上柳安危

飲徹 美事般般四、良辰盞盞双云、

晚春遣興 臨臨春至却成晴、花落無声片片

輕、一句杜鵑鄉國淚、半簾皓月故人情、

奉酬 三年睡法応須得云、

○山齋夜坐（山齋夜坐二首）——卷五・絶句。「其二」。／○元旦（元旦在鶴林偶作）——卷五・絶句。／○春興（春興七首）——卷五・絶句。「新花良是旧花非」、「其一」。「鏝風酸雨休相惱」、「其三」。「風主」より

「安危」、「其七」。「鏝」作「鏝」。「酸」作「餒」。／○飲徹——卷五・絶句。／○晚春遣興（晚春遣興二絶）——卷五・絶句。「其一」。「至」作

「去」。「鄉」作「香」。／○奉酬（奉酬陳宮教）——卷四・律詩。

【24表】

春夕与西林老月下坐

燕子呢喃君得知、深談美

相妙難思云、

三月芙蓉 騷人猶恐東風誤、醉眼真疑芍藥紅、

秋熱 槐窓過雨項雨、竹榻無一張涼

感詠 風吹五花輦、露綴九光輿云、酒專風

月權詩欠江山債云、

榻庵 功名不直一杯水、富貴於我如浮雲云、

卷之十六

○春夕与西林老月下坐（春夕与西林老月下坐二首）——卷五・絶句。「其一」。／○三月芙蓉——卷四・律詩。／○秋熱——卷五・絶句。／○感詠（感

詠十解寄呈楊安撫）——卷五・絶句。「風吹」より「光輿」、「其三」。「酒專」より「山債」、「其六」。／○榻庵（榻菴力高士与同散步二首）——卷五・絶句。「其二」。

【24裏】

華陽吟 人身自有一蓬萊云、

贈琴士 竹樣精神梅樣骨、况君梅竹在胸中

清淨經 山花野竹皆談說、蠢動含靈側耳聽

招賢道士 一句秋鴻來入耳云、

梅花醉夢 鴛愁鳳恨不入枕、睡覺身疑在広寒、

卷之十七

徐道士水墨屏 雁側風前字云、

春宵 百花俱中酒、万竹自吟詩云、

○華陽吟（華陽吟二十二首）——卷五・絶句。「其十」。／○贈琴士（贈藍琴士三首）——卷五・絶句。「其一」。／○清淨經（清淨經）——卷五・絶句。「竹」作「草」。／○招賢道士——卷五・絶句。／○梅花醉夢——卷五・絶句。／○徐道士水墨屏（徐道士水墨屏四首）——卷五・絶句。「其一」。／○春宵（春宵有感八首）——卷五・絶句。「其一」。

【25表】

春詞 春二三月東風裏、鶯百千声翠柳中

閑吟 真成花薄命、不及柳風流云、柳困花

慵風力輕、喚晴喚雨鳩無準

梅 蒼苔玉艷委西施、玉胆冰姿尚伯夷、春色

一般清濁異、梅花亦自有安危

卷之十八

一般清濁異、梅花亦自有安危

春風 嬌鶯歌懶咲蜂忙、
 觀物 蜂占薔薇封食邑、蟻侵螺嬴借軍須

○春詞（春詞七首）—卷五・絶句。「其三」。「三三」作「三二」。／○
 閑吟（閑吟三首）—卷五・絶句。「其二」。「薄命」作「命薄」。／●（春
 詞七首）—卷五・絶句。「柳困花慵風力輕、喚晴喚雨鳩無準」の句は、
 「春詞七首」、「其四」にあり。／○梅（梅花有嘆）—卷五・絶句。／
 ○春風（春風四首）—卷五・絶句。「其二」。／○觀物（觀物二首）—
 卷五・絶句。「其一」。

【25裏】

对月 煙響雨聲到今朝、
 木犀 雨送炎官印、風宣白帝麻、欲知秋面目、
 細看木犀花
 江口 丹楓儉落風無覺白鷺微行魚不知、
 即事 南薰喚起蓮花語、西照催歸燕子忙、
 菜羹 一卷仙家煮菜經
 雪中 四外形雲欲詐晴
 卷之廿

○对月（对月六首）—卷五・絶句。「其三」。／○木犀—卷五・絶句。
 ／○江口（江口有懷二首）—卷五・絶句。「其二」。／○即事（即事君
 子堂五首）—卷五・絶句。「其二」。「語」作「悟」。／○菜羹—卷五・
 絶句。／○雪中（雪中三首）—卷五・絶句。「其二」。

【26表】

螺青山下皆地錦花 雨過花嬌山色蘢疑是解舞
 欲狂飛

陳国寺秋吟 雁過天成画、魚驚水作紋、檐牙
 宵吐雨、殿脊暎馱雲、竹手擎霜重、松肩荷月高、
 春日散策 寒花方謁日新燕已參春
 寒食 燕依花色紫、鶯体柳糸黃、
 疑潮 万今千古共誰論、
 湖上偶成 綵属霜鷗雪鷺天、一片紫菱開十字

○螺青山下皆地錦花—卷五・絶句。「是」作「山」。／○陳国寺秋吟
 （護国寺秋吟八首）—卷五・絶句。「雁過」より「馱雲」、「其一」。「竹
 手」より「月高」、「其五」。／○春日散策（春日散策）—卷五・絶句。
 ／○寒食—卷五・絶句。／○疑潮—卷五・絶句。／○湖上偶成（湖上
 偶成二首）—卷五・絶句。「其一」。

【26裏】

霜夕吟月 霜月慰人於冷寞、溪梅挑我以清香
 竹裏桃花 竹夾桃花花映竹、雅如翠障繡西施
 燕語今生事、花開夙世紅、
 曉風吹醒桃花醉暮雨添成柳葉愁醉了又
 愁愁又醉鶯煎燕燭過春休
 卜居 路似羊腸遠、溪如燕尾分、
 竹園 笋如滕薛皆爭長瓜似朱陳已結親
 早行 再三謝風露、拜賜一天涼

○霜夕吟月（霜夕吟月二首）—卷五・絶句。「其二」。／○竹裏桃花—

卷五・絶句。／●（春日自省二首）—卷五・絶句。「燕語」より「世紅」、「其一」。／●（次韻王御帶）—卷五・絶句。「曉風」より、「春休」。／○卜居—卷五・絶句。／○竹園（竹園三首）—卷五・絶句。「其三」。／○早行—卷五・絶句。

【27表】

雪晴 早上新鶯語尚蚤、花無氣力倚鵬欄

卷之廿一

梧窓 世事如塵掃又生、云

盤雲 今古無門閉是非、無心出岫已知機、云

戲鶴林 柱下固能官老子、漆園亦可祿莊周

七仙寺石履 當時達磨持掃去、何事佗來到七仙

醉起雨作 一枕夢雲過、半空教雨來、云

風雨 隔岸蘆招手、沿溪柳拜人、雨癩黃竹路、

○雪晴（雪晴二首）—卷五・絶句。「其二」。／○梧窓（梧窓二首）—卷五・絶句。「其二」。／○盤雲（盤雲二首）—卷五・絶句。「其一」。／○戲鶴林—卷五・絶句。／○七仙寺石履（七仙寺石履二首）—卷五・絶句。「其二」。／○醉起雨作（睡起雨作）—卷五・絶句。「教」作「詩」。／○風雨—卷五・絶句。「雨癩」作「兩痕」。

【27裏】

水嚙白沙津、是中紫翠皆詩料

課園夫二絶 笋方青剥指、茄欲紫垂拳

落梅 終日聽鶯語、商量一樹梅

春晴 朝來花万福、鶯奏起居声

夏日 牡丹芍藥成前輩、茉莉素馨方後生

問春 風魔雨難許多花

卷之廿二

秋日 未霜楊柳老多病、既雨芙蓉美少年

○風雨、続き。／*是中紫翠皆詩料—出典未詳。／○課園夫二絶—卷五・絶句。「其二」。／○落梅—卷五・絶句。／○春晴—卷五・絶句。／○夏日（夏日遣興三首）—卷五・絶句。「其二」。／○問春—卷五・絶句。／○秋日（秋日書懷三首）—卷五・絶句。「其二」。

【28表】

舟中晚眺 白鷺前身真釣叟、青山今日是詩人

晚吟 山似詩肩聳、江如酒量寬、云

露夜露坐 嬾蟬吟後自無聊、云

山居 月落鷄吹角、夜長鷺報更

海瓊先生文集二十三

冬日同王茂翁聯句 風箭射壁鋒、白寒稜入被单、王

雪窓聯句 紅螢粘綠鬢、劉煙麩臥蒼樾、王

暈字招隱 有松為酒有藜当酒

○舟中晚眺（舟中晚眺二首）—卷五・絶句。「其二」。／○晚吟（晚吟二首）—卷五・絶句。「其一」。／○露夜露坐（夏夜露坐）—卷五・絶句。／○山居—卷五・絶句。／○冬日同王茂翁聯句（冬日同王茂翁聯句二首）—卷六前・聯句。「其二」。／○雪窓聯句—卷六前・聯句。「鬢」作「髮」。／○暈字招隱—卷六前・聯句。「当酒」作「当肉」。

【28裏】

紫溪偶成回文体 鸚黃並柳風飄紫、蝶粉粘花露浥香

卷之廿四 賦之類

鶴林賦 養混沌以為子云霞都煙闕云煉

日月兮煮璇機云、盍浮丘之背兮拍洪崖之肩、

紫元賦 友羅睺而媒太乙云、付万物於一蟬云、神霄

之右卿青華之上公者也

懷仙樓賦 松竹起舞自然笙竽云、烹天得滓

煉道取髓云、鹿徑就荒榴洞猶存云、

○紫溪偶成回文体—卷六前・聯句。「紫」作「絮」。／○鶴林賦—卷一・賦。「機」作「璣」。／○紫元賦—卷一・賦。「睺」作「喉」。／○懷仙樓賦—卷一・賦。

【29表】

天台山賦 万頃碧琉璃之水、千層青翡翠之崖、

文章不療山水癖云、

金丹賦 身木欲槁、心灰已寒云、乾馬坤牛衛丁

公於神室、坎烏離兔媒妁女於真壇云、

卷之廿五 頌 銘 贊 偈

玉真瑞世頌 霞旌舞翠、煙幢麗空云、金鼎

凝霜、玉爐煨月、

鶴林伝法明心頌 法是心之臣、心是法之主云、

○天台山賦—卷一・賦。／○金丹賦—卷一・賦。「妁」作「妁」。／○玉真瑞世頌—卷六前・頌。／○鶴林伝法明心頌（鶴林伝法明心頌二首）—卷六前・頌。「其二」。

【29裏】

鶴林靖銘 并序 神仙隱頭、朝凡暮聖

李伯陽贊 蓬萊三万里、道德五千言、一自青牛

去、函闕煙雨昏

觀音贊 花紅柳綠菩薩相、燕語鶯啼般若宗、

自贊 日日落飄裏、溪山掛杖頭云、

為禪悟剪髮偈 一毛頭上一如來

卷之廿六 雜着

鶴林問道篇上 朝參師黃暮參師李云、

○鶴林靖銘—卷六前・銘。／○李伯陽贊（李伯陽贊三首）—卷六前・贊。「其三」。／○觀音贊（醉作觀音像仍為書贊）—卷六前・贊。「其三」。／○自贊（朱文公像贊）—卷六前・贊。「落」作「藏」。／○為禪悟剪髮偈—卷六前・偈。／○鶴林問道篇上—卷三・篇。

【30表】

夫道本無秦越也詎可藩籬吾心哉云、兜率与

泥型同境、諸仏与螻蟻共胎云、

子欲得寒、一与之霜、子欲得熱、一与之湯云、

卷之廿七

無極口說 無者万物之始也、有者万物之母也云、

艮庵說 前輩云、觀一部華嚴經不如說一艮卦

玄闕頭秘論 墨松御史、免穎中書、玄玉騎吏、剡溪都尉

夢說 謂如莊周為蝴蝶又与洞賓夢為螻蟻云、

●（鶴林問道篇下）—卷三・篇。「夫道」より「之湯」まで、「鶴林問道篇下」にあり。／○無極口說（無極図説）—卷三・説。／○艮庵説

〔贈廬寺丞長菴説〕—卷三・説。／●玄関頭秘論〔屏睡魔文〕—卷一・文。〔玄関頭秘論〕（卷一・論）の題が掲げられているが、「墨松」より「都尉」は、「屏睡魔文」にあり。「墨」作「黒」。／○夢説—卷三・説。〔莊周〕作「莊周夢」。

【30裏】

卷之廿九

太平興国宮記 三冕九流、驅雷翁電母之群、

旌旗奮風伯雨師之陣、云芝駟

常寂光国記 温然如春、凄然如秋、彩雲翔碧

霄之南、中有人焉、冠道遙自然冠、履如理実

際之履、衣虚無湛寂之衣、食禅悦法喜食、

其步趨也白雲流水其語默也翠竹黄花

已而 世尊与蝼蟻共胎 大塊其心、枯木其形

○太平興国宮記—卷二・記。「流」作「旒」。「母」作「姥」。「芝駟」、なし。／○常寂光国記—卷二・記。「喜食」作「喜之食」。

【31表】

杖一切無念之杖、張大用現前之蓋、且行且慈

歷五蘊之山、泛六慾之海、離無明之郷出貪噴

之慾

常寂光国戒州禅那県、無何有郷涅槃里也、

心空之殿、解脱之樓、真如之亭、寂滅之

台、円覚之宮、真觀之堂、真人擁五明之

輅駕七宝之輿、闢虚浄光明之藏、堅神通

自在之幢、翁与真人遊乎知見峯之下、有幽

○常寂光国記、続き—「堅」作「豎」。

【31裏】

玄洞慈忍江功德水、四睇久之涉般若之

園、無相之圃、八還苑囿、四処垣塘巡三摩之林、

歩四諦之山真人欲婦、乘般若船、渡平等

海、不彈指間復無際真人揖翁宴坐于清

淨之軒、敞六通戸牖敞万化階庭、焚五分

之香、献六味之饌、薦八在之茗、酌八功德之

泉、呈五眼之珠、示一真之印、設作止任滅之網

燭見聞知覚之灯、云

○常寂光国記、続き—「欲婦」作「欲還」。「復」作「往復」。「坐于」作「坐於」。「敞」作「敞」。「万化」作「万花」。「灯」作「燈」。

【32表】

日用記 性月雖明、情雲易蔽

卷之卅 記

授墨堂記 天下江山眉目之地、云

筆架山雲錦閣記 鞭雲叱月給雨批風彈圧

鶯花節制煙水呼一氣以為父齐万物以為

朋、云

逍遥游之堂奴三飛雲一子一清風一姨晴霞妻明月、云

舞者為惟曰鶴也、吹者為惟曰猿也、簫者惟曰

○日用記—卷二・記。／○授墨堂記—卷二・記。／○筆架山雲錦閣記—卷二・記。「為朋」作「有朋」。「惟曰鶴」作「誰曰鶴」。「惟曰猿」

作「誰曰狷」。「簫者惟」作「簫者誰」。なお、一点が三つあるのは、
底本ママ。

【32裏】

竹也、琴者誰曰松也、飛盤者誰曰日也、擊劍誰

曰電也 命鶴舞者玄裳也、命猿而吹蒼笛也、

竹方韻玉簫也、松方鳴瑤琴也、人間正秋天下

皆雨千崖秋氣万籟雨声、以天地為機以日

月為梭、以煙雨為経、以鶯雁為緯、以天而織之、

以道而弥綸之、則是閣也

龍沙仙会閣記 風中雨帽、飽煙霞飯風月、

内以煉三竜四虎之精華、外以陶七鳥九蟾之

○筆架山雲錦閣記、続き―「誰曰日」作「誰曰月」。「擊劍」作「擊劍
者」。「命鶴舞者」作「命鶴而舞」。「命猿」作「命狷」。／○龍沙仙会
閣記―卷二・記。「飯」作「飫」。

【33表】

造化、棄渭川釣月之竿、積鄭谷耕雲之

耒、振衣岩宙、濯纓澗泉

卷之卅一記

隆興府麻山北洞道院記 烹竜煉虎之道妙云、

蒼湾双鷺翠塢一蟬、

玉隆万寿宮雲会堂記 砭世剂俗、道之為道、

冲如春、煥如秋、嚴如冬、風符雨印竜 虎騎

煙瓢雨笠重趺四方雲衲風巾、裹糧千里、

○龍沙仙会閣記、続き―「宙」作「袖」。／○隆興府麻山北洞道院記
―卷二・記。／○玉隆万寿宮雲会堂記―卷二・記。「煥如秋」作「煥
如夏漠如秋」。「竜」作「竜兵」。

【33裏】

沽利名釣栄遇者也、每到楓林水館煙嶼

風房、主此堂者居此堂者、能調碧玉之絃、能

吟碧雲之章

棘隱記 無使雨我頭、無使霜我肌、入道之易、

如窮猿投林、叛道之易、如游魚躍岸、

淵然如蟄竜之未雷、冥然如海鷗之正睡、

湛然如春空之不雲、寂然如秋潭之有月、

悠然如遊魚躍藻、灑然如寒雁棲蘆、爽然

○玉隆万寿宮雲会堂記、続き―「楓林」作「楓村」。／○棘隱記―卷
二・記。「遊魚躍藻」作「遊魚之躍藻」。

【34表】

如梧桐之晚風、寥然如芭蕉曉雨、

其人必蓬萊之霓裳、弱水羽衣也、秦時毛

女、漢時黎女、

神授雷章記 昔者王文卿得鴉啣印、吳猛得蛇

蟠印、

卷之卅三

雲山玉虚法院記 松姿鶴容霞標芝範、

静勝堂記 松風蘿月与為弟兄、岳猿溪鶴

○棘隱記、続き―「芭蕉暎雨」作「芭蕉之暎雨」。「弱水羽衣」作「弱水之羽衣」。「秦時毛女、漢時黎女」なし。／*神授雷章記―出典未詳。／○雲山玉虚法院記―卷二・記。／○静勝堂記―卷二・記。

【34裏】

堪結盟云

牧齋記 黄帝呼牧馬童子、為天師、釈迦指牧

牛小兒、為菩薩云

卷之卅三

虚夷堂記 四方雲水聞風而來者如蟻云

黎怡庵詩集序 旧為螢窓雪案所役、烏知

郊如何寒、鳥若為瘦、万松作瞿唐声云

蟄仙庵 崇岡複袖、豊泉茂樹云

○静勝堂記、続き―「盟」作「友朋」。／○牧齋記―卷二・記。／○虚夷堂記―卷二・記。／○黎怡庵詩集序（黎怡菴詩集序）―卷一・序。

「案」作「按」。／○蟄仙庵（蟄仙庵序）―卷一・序。「袖」作「袖」。

【35表】

送朱都監入閩序 平生翰墨半天下云

仙槎序 日月為双楫耳乾坤特一軋蓬耳

卷之卅五

松岩序 傲雪凌霜、挈雲攫霧云夫松者、

以正信為根、以禪定為林、以智惠為枝、以機用

為葉、岩者、以堅固為壁、以妙蜜為路、以直

下為崖、以向上為竅此豈世間所謂松之

為松岩之為岩也欤、若夫松岩之春、花咲

○送朱都監入閩序―卷一・序。／○仙槎序―卷一・序。／○松岩序―卷一・序。「蜜」作「密」。「咲」作「笑」。

【35裏】

鳥啼頭物密旨、風融水暖巖露重云玄松

岩之夏、松風說法、蘿月談空、松岩之秋、風

凄露冷、楓葉掃空月淡雲疎、菊花變相、

松岩之冬、般若花殘、真如竹老、菩提噴雪、

円覺凝霜云

卷之卅六

又紫元席上作 自有海樹山茶似語如愁臥晴

昼云芍藥覓醉牡丹索咲云

○松岩序、続き―「顯物」作「顯揚」。「巖露」作「發露」。／○又紫

元席上作―卷六前・詩余。「海」作「滿」。「咲」作「笑」。

【36表】

又送王侍郎師三山 大丈夫兒氷肝玉胆云

相府如潭、侯似海云

又寄鶴林 豪蜂醉蝶云、燕似談禪、鶯如演史、

又題桃源万寿宮 鑪煮山川、粟藏世界云

瑞鶴山 雨泊風凜、水辺雲杪云、詩兵酒卒云

卷之卅七 長短句

自述 一箇清閑客、無事掛心頭、包巾紙襖、单

瓢隻笠、只這坤牛乾馬便是離竜坎虎云

○又送王侍郎師三山（又送王侍郎師三山二首）―卷六前・詩余。「其

二。「侯」作「侯門」。／○又寄鶴林（又寄鶴林三首）一巻六前・詩余。
「豪蜂醉蝶」、「其二」。「燕似」より「演史」、「其三」。／○又題桃源方
壽宮一巻六前・詩余。／○瑞鶴山（瑞鶴山二首）一巻六前・詩余。「雨
泊」より「雲杪」、「其二」。「詩兵酒卒」、「其二」。「滄」作「餐」。／
○自述（水頭歌自述十首）一巻六前・詩余。「一箇」より「隻笠」、「其
三」。「只這」より「坎虎」、「其四」。「紙」作「帟」。

【36裏】

天魂地魄、満鼎花、永乾生、諸葛少馬援、尚
雲萍醉郷、日月飄然、身世付劉伶知道、
東門黃犬不似西山白鷺、
又別鶴林、幾箇黃昏、勞悵想、浪萍風絮、
瑤台月、虎殿虬宮、龍簫鳳笛、荷亭竹閣、
共風同月、

卷之卅八 長短句

又夢繞荷花、国遍橘洲、柳市、芙蓉巷陌、桂

○自述、続き一巻六前・詩余。「天魂」より「永乾」、「其六」。「生諸」
より「白鷺」、「其七」。「花永」作「永花」。／○又別鶴林（又別鶴林
二首）一巻六前・詩余。「其一」。／○瑤台月一巻六後・詩余。／○又
寄鶴林靖一巻六後・詩余。「荷亭竹閣、共風同月」の句は、「又寄鶴
林靖」にあり。／●又（賀新郎二首）一巻六後・詩余。「夢繞」より、
次葉の「白蘋里」まで、「賀新郎二首」の「其二」にあり。「国」作
「凶」。

【37表】

杜蘭郷、白蘋里、

又詠牡丹 牡丹花如人、半醉擡頭不起、風禁雨制
又送趙師之江州 風檣露舶、春鶯秋雁、
又贈紫元 丹華翠景、紅霞紫霧、人間事等風絮上
又別鶴林 酒竜詩虎、柳亭楓駟、
又贈林紫元 一畝煙霞活計
又賦白芍藥号為玉盤盃 花裏流鶯罵桃李
喜遷鶯鶴林靖偶作 心緒更沒鴛鴦債、

●又、続き。／○又詠牡丹一巻六後・詩余。蓬左本にも、「禁」の下
に細字で「平声」とあり。／○又送趙師之江州（又送趙師之江州三首）
一巻六後・詩余。「風檣露舶」、「其二」。「春鶯秋雁」、「其二」。／○又
贈紫元一巻六後・詩余。／○又別鶴林一巻六後・詩余。／○又贈林紫
元（又贈林紫光）一巻六後・詩余。／○又賦白芍藥号為玉盤盃一巻六
後・詩余。／○喜遷鶯鶴林靖偶作一巻六前・詩余。

【37裏】

鎖却心猿、意馬縛住金烏玉兔、

卷之卅九 長短句

又次韻東坡賦別 羊石論交、鵝湖惜別、
又羅浮賦別 胸次可吞雲夢九也、
又賦梅 松竹為知己、
卜算子 古寺枕空山、
行香子題羅浮 滿洞苔錢買斷風煙、
独枕空拳与山麋野鹿同眼、

○喜遷鶯鶴林靖偶作、続き。／○又次韻東坡賦別一巻六後・詩余。／
○又羅浮賦別（又羅浮賦別三首）一巻六後・詩余。「其二」。／*又賦

梅—未詳。／○卜算子（卜算子景泰山次韻東坡三首）—卷六後・詩余。
 「其二」／○行香子題羅浮—卷六後・詩余。「眼」作「眠」。

【38表】

蝶恋花 題愛閣 一堤柳梢青海棠 醉時西子

睡底陽妃 尽皆蜀種垂糸云

山前散策 詩天眼界寬

無相長老、流水住持

海棠避席 兮梅黃雨如綆、荷錢買夏兮

柳絮舞春云

把湖山牌印 鶯花權柄

柳翠已參弥勒了

○蝶恋花 題愛閣（蝶恋花 題愛閣三首）—卷六後・詩余。「其三」。「一堤柳」作「一堤楊柳」。／○梢青海棠—卷六後・詩余。／○山前散策—卷五・絶句。／*無相長老—未詳。／●（福海院記）—卷二・記。「流水住持」の句は「福海院記」にあるが、抜書が短いため、待考。／●（翠麓夜飲序）—卷一・序。「海棠」より「舞春」は、「翠麓夜飲序」にあり。／*把湖山牌印 鶯花權柄—未詳。／●（又贈豫章尼黃心大師）—卷六前・詩余。「柳翠已參弥勒了」の句は「又贈豫章尼黃心大師」にあり。

【38裏】

紙被畏雲眠

兜率樂天

秦韓之地形如繡

秦楚之愚、晋齐之智

*「紙被」以下、全て未詳。

【注】

- [1] 内山精也「万里集九と宋詩」『アジア遊学九十三 漢籍と日本人』勉誠出版 二〇〇六年
- [2] 芳賀幸四郎『東山文化の研究（上）』河出書房 一九四五年。氏は、瑞溪周鳳『臥雲日件録』の享徳二・九・十四年、第五十五・六冊の末尾抜書、万里集九『梅花無尺蔵』の第一・二・三上・六、桃源瑞仙『蕉窓夜話』、策彦周良『蠡測集』に引用例があると指摘する。
- [3] 芳賀幸四郎『中世禅林の学問および文学に関する研究』日本学術振興会 一九五六年
- [4] 万里集九『梅花無尺蔵』玉村竹二『五山文学新集』第六卷所収 東大出版社 一九九一年
- [5] 玉村竹二『万里集九解題』前掲注〔4〕『五山文学新集』第六卷所収。
- [6] 吉池慶太郎編『米澤善本の研究と解題』市立米澤図書館、一九五八年。／市立米沢図書館ホームページ、デジタルアーカイブ参照。（http://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/AA096_view.html）
- [7] 前掲 注〔1〕。
- [8] 神田喜一郎『五山文学と填詞（一）』『神田喜一郎全集VI』同朋舎 一九八五年
- [9] 中本大「本邦禅林の「韓王堂雪詩」における李煜詞の受容をめぐって」『国語国文』六十二巻十号 中央図書出版社 一九九四年
- [10] 蓋建民輯校『白玉蟾文集新編』社会科学文献出版社 二〇一三年／蓋建民輯校『白玉蟾詩集新編』社会科学文献出版社 二〇一三年／董沛文主編『白玉蟾全集 上下』宗教文化 二〇一三年
- [11] 劉亮『白玉蟾生平与文学創作研究』鳳凰出版 二〇一二年
- [12] 前掲 注〔11〕劉亮『白玉蟾生平与文学創作研究』第一章 白玉蟾

生平考」第二節 明代臞仙本白玉蟾集考弁」参照。

〔注記〕

本稿では翻刻の掲載のため、蓬左文庫と東洋文庫に許可をいただき、国立公文書館にも確認をとっている。末尾ながら、調査に際し、ご協力を賜りました蓬左文庫・東洋文庫・国立公文書館の皆様、また『白玉蟾文集新編』・『白玉蟾詩集新編』を中国よりお取り寄せくださった、山東大学東大威海校区翻訳学院の佐々木雷太様に厚く御礼申し上げます。